

健康診断 検査内容のご案内



お申込みについて

- ※ オプションのお申し込み期限は **予約日の1週間前まで** となります。
- ※ 検査予約の人数制限がある検査もございますので、お申し込みはお早めをお願いします。
- ※ 利用される補助の契約によって、基本項目として既に追加されている検査項目もあります。

オプション検査項目 ※検査費用は自己負担となります		費用(税込)	
胃部検査	1.胃バリウム(胃X線)	8,800 円	
	2.内視鏡	11,000 円	
エコー検査	3.上腹部	3,300 円	
	4.下腹部(上腹部とセットのみ)	6,600 円	
	5.甲状腺	2,750 円	
頭部	6.頭部MRI	11,000 円	
	7.頭部MRI+頭部MRA	22,000 円	
肺	8.胸部CT	8,800 円	
	9.喀痰	2,750 円	
骨	10.骨密度	3,300 円	
血液	腫瘍マーカー	11.消化器系:CEA・CA19-9	3,740 円
		12.肝臓系:AFP・DCP	3,740 円
	13.甲状腺ホルモン	FT3・FT4・TSH	6,600 円
	14.ピロリ抗体検査		1,870 円
	15.アレルギー検査	36項目	16,500 円
その他	16.睡眠時無呼吸症候群	8,800 円	
	17.Inbody(体成分分析装置)	550 円	
男性向け	18.前立腺腫瘍マーカー:PSA	1,870 円	
女性向け	乳がん検診	19.乳腺エコー	3,300 円
		20.マンモグラフィ2方向	4,400 円
		21.マンモグラフィ1方向	3,300 円
		22.3Dマンモグラフィ	8,800 円
		23.乳腺視触診	1,100 円
	婦人科検診	24.子宮がん検査(内診・経膣エコー・頸部細胞診)	4,400 円
		25.上記検査+HPV検査	11,000 円
		26.卵巣腫瘍マーカー:CA125	1,870 円

公益社団法人 山梨勤労者医療協会

甲府共立病院 総合健診センター



TEL. 055-226-3131 (代表)

TEL. 055-226-5201 (直通)

FAX. 055-226-5202

～ 以下の方は 検査をお受けできません ～

胃バリウム（胃X線）

- 80歳以上の方
- 過去にバリウム検査でアレルギー症状があった方
- 3日以上排便がない方
- すばやく体を動かすことができない方
- 飲食時にむせる方
- 健診当日の最高血圧が180以上、または最低血圧が110以上の方
- 腹部の手術既往がある方

マンモグラフィ

- ペースメーカー、V-Pシャント中の方
- 乳房形成術後、豊胸手術後の方
- 妊娠中、または妊娠の可能性のある方
- 授乳中の方：授乳中の方は乳腺が発達しているため、正確な判断ができません。断乳後6カ月から3年後の検査をお勧めします。

MRI・MRA

- ペースメーカー、人工内耳が入っている方
- 妊娠中、または妊娠の可能性のある方
- 閉所恐怖症などの狭いところが苦手な方
- 長時間同じ姿勢が取れない方
- 体内に脳動脈瘤クリップなどの金属が埋め込まれている方

MRI・MRAの検査中、外す必要があります

- ・ 一時染毛料（髪パウダー・髪ポリリュームUPスプレー等）を使用している方
- ・ インスリンポンプ、リブレを使用している方
- ・ 義歯・歯内補填物を使用している方
- ・ ヒートテック・化粧・刺青の方：成分によってやけどの恐れがあります

子宮がん検査（内診・経膣エコー・頸部細胞診）

- 妊娠中、または妊娠の可能性のある方

オプション検査の詳細

1. 胃バリウム（胃X線）

食道、胃、十二指腸といった上部消化管の内面を造影して調べる検査です。事前に飲んだバリウムがスムーズに流れるかをX線で見ること、胃全体の形・大きさ・粘膜の状態や突起、くぼみの有無がわかります。

2. 内視鏡

口や鼻から内視鏡（胃カメラ）を入れ、食道、胃、十二指腸を直接観察する検査です。病変が見つかった場合、その一部を採取し病理組織検査を行うこともあります。バリウムが苦手な方や便秘になりやすい方、以前バリウムで所見があった方にお勧めです。

3. 4. 上腹部/下腹部超音波

腹部臓器の状態を超音波を用いて調べます。肝臓・胆のう・膵臓・腎臓・脾臓の様子を観察し、大きさや形状、血流についての情報をリアルタイムで得ることができます。

5. 甲状腺エコー

喉の部分にある甲状腺に超音波を当てることで、大きさや形、組織の状態を調べます。

6. 頭部MRI

脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、脳萎縮などの脳疾患の状態を調べる検査です。
電磁場を用い、脳を立体的に撮影します。



7. 頭部MRI+頭部MRA

脳血管の状態を調べる検査です。

MRIに加え、くも膜下出血の原因となる動脈瘤や動静脈奇形なども調べることができます。

8. 胸部CT

肺気腫や炎症、腫瘍を調べる検査です。X線で360度照射し、肺を輪切撮影をします。

9. 喀痰

3日蓄痰法で肺がんを調べる検査です。

喀痰を採取し細胞を集めて、細胞診検査をします。X線では写りにくい、肺門部（肺の入口）がんの早期発見に効果が高く、痰が多い方、タバコを吸う方にお勧めします。

10. 骨密度

骨粗鬆症、骨密度を調べる検査です。

骨塩定量検査（DEXA法）という2種類の異なるX線を腰と大腿骨頸部に当て測定します。

最も精度の高い検査方法とされています。

年齢に対する骨密度も算出できます。

11. 腫瘍マーカー（消化器系：CEA・CA19-9）

消化器系がん疾患、肝硬変、胃潰瘍、慢性膵炎、胆石などで数値が高くなります。

肺がん、子宮がん、乳がんでも数値が高くなる場合があります。

喫煙や年齢によって数値が高くなる傾向があります。

※ この検査だけでがんの診断はできません。



12. 腫瘍マーカー（肝臓系：AFP・DCP）

肝がん・肝硬変・肝炎などで数値が高くなります。

糖尿病、胃がんなどでも数値が高くなることもあります。

※ 早期発見に有効な検査ですが、ワーファリンを内服されている方は状態に関わらず高数値となるため、検査ができません。

※ この検査だけでがんの診断はできません。

13. 甲状腺ホルモン（FT3・FT4・TSH）

甲状腺で作られる甲状腺ホルモンの量を調べる検査です。

ホルモンの過剰分泌によってFT3・FT4の数値が高く、TSHの数値が低ければ甲状腺機能亢進症（バセドウ病）、逆に分泌が少なければ甲状腺機能低下症（橋本病、粘液水腫など）といった症状が考えられます。

男性の2%、女性では15%の割合で甲状腺機能障害があると言われています。

※ この検査だけでがんの診断はできません。

14. ピロリ抗体検査

ヘリコバクター・ピロリ菌感染を調べる検査です。

日本人の胃がんや胃潰瘍、十二指腸潰瘍の大きな原因の一つとなっています。

今までに一度もピロリ菌検査を受けたことがない方にお勧めです。

15. アレルギー検査（36項目）

一度の採血で36項目（48種類）のアレルゲン特異的 I g E（アレルギーの原因物質に対して働く抗体）を測定し、アレルギーを引き起こす物質（アレルゲン）がないか検査します。

16. 睡眠時無呼吸症候群

睡眠中に呼吸が止まる、または浅く・弱くなることで十分な睡眠をとることができず日常生活に障害を引き起こす病気です。

ご自宅にて検査機器を指先・呼吸のセンサーを装着し血液中の酸素、呼吸の状態を測定します。

眠っているときに呼吸が止まっている・いびきがうるさいと言われる

しっかり寝ているのに日中強い眠気や疲れを感じている、夜中に何度もトイレに行く方におすすめです。

17. Inbody（体成分分析装置）

体水分・タンパク質・ミネラル・体脂肪を定量的に分析し、栄養状態に問題がないか、体がむくんでいないか、身体はバランスよく発達しているかなど、人体成分の過不足を評価することができます。

自分のポテンシャルを数値化した結果を元に、体重を調節するための具体的な目標を立てるのに役立ちます。

男性向け

18. 腫瘍マーカー（前立腺：PSA）

前立腺がん、前立腺肥大症などで数値が高くなります。

早期発見に推奨されている検査で50歳以上の方にお勧めします。

※ この検査だけでがんの診断はできません。



女性向け

◆乳がん検診

19. 乳腺エコー

超音波を用いて乳がんを調べます。

乳腺組織が密な若い女性やレントゲン検査が行えない方に有効な検査です。

20. 21. マンモグラフィ2方向/1方向

プレートで乳房を挟み、X線にて乳房撮影をします。

2方向の方が高精度です。

しこりになる前の石灰化も発見できるため乳がんの早期発見が期待できます。

22. 3Dマンモグラフィ

撮影角度を変えながら複数回撮影を行います。

従来のマンモグラフィでは乳腺と重なって隠れていた病変が発見しやすくなり、より精度の高い画像診断ができます。

乳腺が発達している方や若い女性にお勧めの検査となります。

23. 乳腺視触診

しこり等がないか医師が調べます。



◆婦人科検診

24. 子宮がん検査（内診・経膣エコー・頸部細胞診）

子宮筋腫・内膜症・卵巣腫瘍等を調べます。

子宮頸部の細胞を採取し、細胞診検査をします。

細胞の採取は数分で終わりますが、粘膜を採取するため少量の出血を伴うことがあります。

25. 上記検査+HPV検査

子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）に細胞が感染しているかを調べる検査です。

HPV感染のほとんどは一過性で自然に消失しますが、約10%は持続感染し、子宮頸がんの危険性が高まります。

検査方法は、子宮頸部の細胞を採取し、そのぬぐい液を用いてPCR検査をします。

HPV感染の性質上、30歳以上の方にお勧めします。

26. 腫瘍マーカー（卵巣：CA125）

卵巣がん、子宮がん、胆道がん膵臓がん、子宮内膜で数値が高くなります。

治療効果や再発予測としても用いられる検査です。

※ この検査だけでがんの診断はできません。